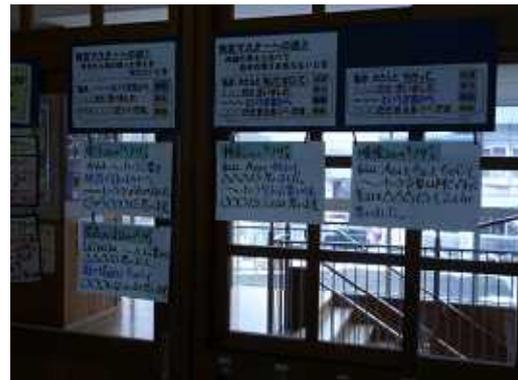


## 小中連携で授業力を高める取組

昨年度より、岩邑小中学校では、互いの教師が授業を見合ったり、教え合ったりする活動を定期的に位置づけています。この1年間で、算数（数学）、社会、音楽、体育、英語等の教科授業を見合ってきました。その成果が出てきていると感じた出来事がありましたので、以下にまとめたいと思います。

1月26日（金）に中学校の半日入学がありました。「半日入学で、印象に残ったのは何だった。」私は6年生の子に感想を尋ねました。すると、多くの子が「社会の授業で先輩達の発言がすごい！」と教えてくれました。さらに詳しく聞くと「中学校へ行ったらあんなにすごい発言ができるようになるんだね。」とか「きっと、もっと勉強をがんばらないとね。」ということも話してくれました。ここで嬉しかったのは、小学校6年生の子ども達が、中学校2年生の社会科の授業を見てその発言力の高さに気づけていることです。いつも、授業で「わかりやすく自分の思いを仲間に伝えよう。」と努力をしていない限り、発言力の高さや低さは、なかなか分からないと思います。子どもがこのように感じてくれたのは、6年1組担任の高橋先生が、子どもの発言力を高める取組を継続しているからに他なりません。高橋先生は、今年度の秋、岩邑中学校で見た三宅先生の社会科の授業に大きな影響を受けたそうです。そこで、中学校の授業で求められる「根拠を明らかにした発言」が今の6年生には必要であると感じ、この取組を始めたということです。

上の写真は、小学校6年1組の側板掲示です。三宅先生の授業を参考にして発言の仕方やそのルールがまとめてあります。子どもと高橋先生が相談をして、6年1組のオリジナルのルールになっています。実際、今の6年1組の発言力はかなり向上してきています。



良く巷で言われる「中1ギャップ」の多くは授業の中で現れてきます。それをなくすためにも、授業における小中学校の連携は不可欠だと感じています。小中学校の教師が授業を見合い、高めあうことは、実は全て子ども達のためになっているのだと実感しています。

